

《新世界》から発信されたドヴォル  
ジャークの手紙と当時のアメリカ

追悼



半場久也

その(26)

カットも筆者

◎ヤン・ヨゼフ・コ  
ヴァルジーク宛て

(原注・1850)

1939、アイオワ

州スピルヴィルのチ

エコ語及び英語学校

の教師。自分の息子の仲介でドヴォルジ  
ヤークと知り合う。

ニューヨーク、一八九四年五月十八日

『親愛なる友よ！

既に明日、我々はヨーロッパへ出発し

ます。それで私はあなたに御機嫌よろし

くと言いたいのです！ さようなら！

コヴァルジークは今の住まいに留まっ

て、あなたもご存知の通り、夏にはする

## 故郷での夏休みを楽しみに

ことにありつくでしよう。彼はザイドル

のところで夏の間、職を得ました。けれ

ども私の思うには、ここは貧しい人々に

とって、我々を抜きにしては厳しいもの

になるでしよう。しかしどうやったらよ

いのでしょうか。この際、仕方ないこと

です。

我々が故郷へ帰ることがどんなに嬉し

いことか。あなたもはつきりと分かつて

おられるでしよう。特に我々の様に  
長い間故郷を失ったと思う人間にと  
って、また、そうしたことに慣れて  
いない人間にとつて！

しかし私には大事な父が元気な状態で  
会えるという大きな楽しみが失われたの  
です。というのは彼は三月二十九日に、  
八十歳で亡くなってしまったのです。神  
よ彼に永遠なる喜びを！

ヴィンカーも楽しいけ

れど、私が気に入ったスピ

ルヴィイも再び訪れたいと思

っています

我々は神の存在を望み我々が再会する

ことを望んでいます。何かひと言でもブ

シーブラムの近郊のヴィンカーの方へ手

紙を書いて下さい。そしたらどんなに嬉

しいことでしょう。

スピルヴィルの神父ビーリーさんにと

うかよろしくお伝えください。

おじいちゃん、おばあちゃん、ビーリ

「おじいさんの他、皆さんのことを我々は思い出しているのです。」

皆さんお元気で、神様が守ってくれています。では再会するまで！ あなたとあなたの愛する人々全員にキスを送ります」

**コメント** 「ドヴォルジャークは、いよいよ、この夏休みを利用して故郷で過すことになった。この前の手紙で、五月十九日にニューヨークを離れるとあったので、この手紙はその前日に書かれたものである。自分の秘書にしていたコヴァルジーク青年が、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団へ、恐らくドヴォルジャークの紹介で入団出来たのであろう。そのことを彼の父親に知らせる必要があったのである。因みにこの男の名前も父親と同じらしい。(ヤン・ヨゼフという)」

◎フリッツ・ジムロック宛て (原文下)

イツ語)

ヴィンカー、一八九四年八月二十五日『大事なジム・ロック様！

あなたが私に書いてくれた報酬に対して私は作品を渡すわけには参りません。



DR. DVORAK'S  
GREAT SYMPHONY.

"From the New World" Heard for the First Time at the Philharmonic Rehearsal.

ABOUT THE SALIENT BEAUTIES.

First Movement the Most Tragic, Second the Most Beautiful, Third the Most Sprightly.

INSPIRED BY INDIAN MUSIC

The Director of the National Conservatory Adds a Masterpiece to Musical Literature

DR. ANTON DVORAK, the Bohemian composer and director of the National Conservatory of Music, composed ANTONIA, an early work published when he was eighteen in 1859. From the New World, now known as the second Philharmonic rehearsal in the

MR. WIELD LEADING THE NEW YORK SYMPHONY.

And then a series of musical pieces in a style which has become famous in the New World. The composer is now living in Prague. The first performance of the new work was given at the Philharmonic Rehearsal on August 19th, 1894. The work is a masterpiece, which has already won an international reputation. It is a masterpiece of the modern school, which has already won an international reputation. It is a masterpiece of the modern school, which has already won an international reputation.

### NYのヘラルド・トリビューン紙に載った「新世界」初演の記事

私がニューヨークから出した手紙では、ソナチネと歌曲十曲とピアノのための組曲、それに〈テ・デウム〉を加えて一万マルクで渡すことが出来ると知らせたのです。〈テ・デウム〉はあなたに送っていません。これは二千マルクの積もりでいます。ですから八千マルクはこれら三曲の代金として受け取  
**音楽出版社側と**  
**厳しい価格交渉**

りました。私はそう解釈しているので  
す。  
歌曲集とソナチネと組曲で八千マルクを要求します。どんなことがあっても、お金を受け取るわけにはゆきません。要求に基づいて返送します。これらの譲渡に承諾のサインを致しませんので、差し当たり印刷を中止して下さい。  
この件は、恐らくあなたの甥が「報

酬」という言葉で始めた間違いです。何故ならば、三千マルクということに關して私の手紙にも、またニューヨーク宛てのあなたの手紙にも、話題になつていません。即時の御返答をお願い致します。ピアノ用の小さな軽い作品集を次回用意します。

ごきげんよう。

ニューヨークからの私の手紙では四曲に対してはつきりと一万マルクを要求しました。ですから、これら三曲を三千マルクで渡すわけには行きませぬ』

### ◎フィリッツ・ジムロック宛て

プラーハ、一八九四年九月十九日

『親しきジムロック様！』

あなたが一八九四年九月九日に出された最後の手紙に私の作品、ヴァイオリンとピアノのためのソナチネと十曲の《傘書の歌》とピアノのための組曲

に關する報酬問題の食い違いを是正したいという話には満足しております。もしもこれらの三曲に（私の思い違いであつても）後から三千マルクを支払ってくださるなら（テ・デウムは入つていません）、この際、新作のピアノ曲作品一〇一番（八曲でタイトルは多分ヘューモレスク）を四千マルクで提供出来るでしょう。ごきげんよう』

### コメント

（ここではベルリンの楽譜出版社ジムロックとの商売上の駆け引きが行われている。ドヴォルジャークは、自分の作品の評判がよいことで強気になつて、相手のジムロックを思うように振り回している様子が見られる。ここでジムロックは作曲家の要求に応じてしまつた）

### 参考引用文献

▽内藤久子著 『ドヴォルジャーク』 — 作曲家、人と作品シリーズ 音楽之友社

▽黒沼ユリ子著 『わが祖国チェコの大地よ』（ドヴォルジャーク物語） リブリオ出版

▽西洋の音楽と社会（9）世紀末とナシヨナリズム ジム・サムソン編 三宅幸夫訳 音楽之友社

▽奥田恵二著 『アメリカ音楽』の誕生 河出書房新社

▽ポール・ジョンソン著 『アメリカ人の歴史』 別宮貞徳訳 協同通信社

▽猿谷 要著 『世界の都市の物語 ニューヨーク』 文芸春秋社

（ 続 く ）

平成 18 年 4 月号から連載した音楽評論も、筆者が亡くなられ今回で中断の予定でしたが、ご遺族の意向で次号からも続けます。クラブ通信（143頁）をご覧ください。